

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600312		
法人名	有限会社ハタ介護ステーション		
事業所名	グループホーム我が家		
所在地	帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	平成25年10月28日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JizyosyoCd=0174600312-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・高齢にともない声を出して笑うことは少なくなると思うが我が家では声の出る笑いのある毎日をなじみの関係のもとで利用者スタッフ共に笑顔で過ごせる所が我が家の良い所です。</p> <p>・体調変化危険性については常に全スタッフにより情報交換し検討し即対応している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年3月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、帯広市の中心市街地の住宅街に位置し、1ユニット9名の利用者を支え、共に「我が家」を築きあげて13年目を迎える。周辺地域はのどかさが残る環境にあり、建物横を流れる帯広川河川敷の堤防は、桜や木々の緑を楽しむ事ができる恰好の散歩コースになっている。利用者の高齢化や重度化も進んできているが、日々の生活に笑いが大切と考え、管理者、職員が意識して場面展開を図る事で、利用者同士、利用者と職員、更に家族も含めた連帯感や信頼感を生み出しており、事業所理念が日常業務で実践されている事が視える。利用者が一堂に会し茶菓を楽しむ時間は、外出や活動、献立など一人ひとりの希望を聞きながらユーモアある会話の中で、和やかな笑いが交わされる場になっている。また事業所では、健康の維持、管理にも十分に配慮し、医療機関との連携を充実させ利用者、家族の安心に繋げるとともに、日常生活の延長線上にある終末段階のケアもチームで取り組んでいる。職員の交代も少なく馴染みの関係性が維持されており、統一した方向性の下で利用者の思いや心身の状態の把握、共有が徹底され、利用者に向き合いながら個々に応じたケアに取り組んでいる。建物内は、柔らかな陽光が差し込む家庭的な雰囲気であり、人としての尊厳を保ち落ち着いて過ごすことができるような居場所作りを行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングやホーム内研修を通じて家族主義を基本として人間関係及び生活環境のもとの生活の場が「我が家」でありその理念の中で日々の暮らしを進めている。(全職員)	「家族主義」を事業所の基本的な考えとして、利用者が地域の中で暮らし続ける事を支えている。思いやりと連帯感を大切にして、全職員間で理念の共有を図り、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し個々に応じて行動に参加や散歩等において声をかけあったり災害時の連絡と避難場所として両隣りお向いの方と助け合ったり取り決めている交流を行っている。	近隣住宅とは、災害時等の避難場所や新鮮野菜のお裾分けなど、相互の助け合いや交流が行われている。また地域の資源回収等の協力や高齢者介護の実践経験を活かし地域高齢者の相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員や高齢者の相談やその家族の見学や認知症の対応等の相談を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己及び外部評価等の報告及び取組など全般において助言、要望をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、利用者、家族の代表、民生委員2名、市職員等が参加している。会議では利用者や職員の動向、各種活動状況、自己評価及び外部評価等を報告し、地域情報や助言を得て、サービスの向上に繋げている。議事録は回覧し周知を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を密に努めている。	行政主催の会議に参加し、情報収集を図るとともに、介護業務に関わる申請や運用など、随時市担当部署に出向いたり、電話等で確認、相談し協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者の指示がなければ如何なる状況であろうと絶対に行なわない事が原則として全職員に徹底している。 日中は常に開放しており夜間のみ施錠する。	身体拘束を行わないことを原則としており、利用者に危険が伴う場合の対応の仕組みを明確にしている。防犯のため夜間は玄関を施錠している。何気ない言葉が不適切と感じられる場合は、職員自身の気付きや理解が進むように管理者が指導している。さらに禁止対象となる具体的な行為について、職員間で学びを深める事を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にあってはならない事であり、全職員が理解し徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し合いにおいて必要な方に活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会等において利用者及び家族の意見・要望・助言など委員として参加しており、常に運営に反映している。	管理者は、お茶の時間に今日の予定を伝えながら利用者個々の希望を聞く場を設けている。また、家族の来訪時や、毎月の請求書を自宅に届ける際には、利用者の状況を報告しながら意向を伺うようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや園内研修において十分に各自自由に意見をのべ訴え等聞き入れる雰囲気自然に作られ反映している。	職員の意見や提案を大切にしており、信念を持って取り組むことを促している。意見等は介護主任を通して管理者に報告され、運営に反映している。また随時職員と話し合う時間を持ち、向上心を支えながら指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者からの報告や意見に聞き入れ働きやすい環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を中心にホーム内外の研修機会計画をたててトレーニングをしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に地域の同業者と交流を持ち訪問や勉強会等の活動に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談等は常に訪問活動にて本人自身求めている事、不安なことを聞く機会を何度でも訪問して受け入れ安心を確保するために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談等は常に訪問活動にて家族が困っている事、不安な事において何度でも訪問し安心を確保に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が本人・家族と相談の上で支援を見極め合意にて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は(日常的に行っている)一人ひとりとの生活の場として共に歩み、一人ひとりのすべてを知り理解し、信頼関係のもとで安心感のある支え合う関係を築き、これを基本において進めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が一体となって本人にとって、より良い生活の場を送る事に常に共有し合って進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いをもとに家族や知人の理解のもとで対応している。	家族や親族、知人など来訪の際には、自室でゆっくりできるように対応している。通院後に遠回りして自宅周辺や馴染みの場所を巡ったり、スーパーに出掛けるなど、利用者の思いを受け止めながら関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日情的にスタッフは利用者同士が関わり合う事の橋渡し役に立って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が訪問したり、相談を受けたり関係の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの状態や生活特性ライフスタイル等の暮らし方を理解し、出来るだけ利用者本位の思いを大切にされた対応を行っている。	日常の関わりの中で、利用者一人ひとりとコミュニケーションを図り、思いや要望を聞く機会を多く持ち、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の一人ひとりの対話や家族、知人等なり過去の生活歴、生活環境等の情報を把握し、取り入れながら個々に応じてケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の精神的、身体的な状況や能力を理解し、現状にそくしたケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者を中心に毎日のミーティング、ホーム内研修にて日常的变化に随時及び定期的に見直し対応を行っており、その都度、本人及び家族との話し合いでの結果を個々の計画に反映し作成している。	利用者、家族の意向を把握し、日々の暮らしの状況を反映した介護計画作成に取り組んでいる。計画は、担当者を中心に全職員で検討し、定期見直しや状態変化に即して作成している。日々の記録は身体状況など特別な変化を中心に記載し、関係者間で共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化に応じて個々のケース記録に記入し、全職員が共有し合い介護計画の見直しに対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームのみの機能において全力で行なっているが多機能性を活かす面については今後検討して行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて対応を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	早期発見、早期治療を基本とし利用者個々において、それぞれの主治医のもとで日常の健康管理に医療活用(定期、随時通院及び往診)の協力を得ている。	職員が利用者個々のかかりつけ医の受診対応を行い、緊急や状態変化時には家族同行で医師の説明を受けている。服薬、既往歴等の情報ファイルの持参により情報共有を図り、協力病院とも密な関係を構築して、日常の健康管理に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の看護職(運営推進委員)との協力のもとで日常の健康管理や協力医療機関の指導協力にて対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との理解協力のもとで入退院の期間や回復等におけるの情報や治療状況についての説明を受け、常に対応を共有して対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医、ホーム側の事前協議において「できること」「できないこと」を見極め、その都度家族、主治医と共に連携して重度化や終末期のケアの対応を行っている。	状態変化や重度化の段階において家族や主治医、事業所間で話し合い、今後の方針を共有している。本人、家族の希望により、事業所のできるケアを見極めながら、主治医の指示の下、その人らしい暮らしの延長として終末期的なケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員にマニュアルを配布し、ミーティングやホーム内研修等において研鑽を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員にマニュアル等を配布し、ミーティングやホーム内研修に研鑽し、定期的に避難訓練を行っている。又、地域の協力のもとで避難場所の協力を得ている。	年2回の避難訓練、夜間や地震想定の実演を実施している。防寒対策や災害時の備蓄等の準備を進めている。広域避難場所を家族に周知し、一時的避難場所として近隣住宅の協力を得ている。	高齢化等の周辺地域事情もあり、地域住民参加の避難訓練が実施されていない。災害非常時には住民の協力が大きいので、今後も地域状況を鑑みながら、訓練に住民の参加や協力が得られる取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的なケアにおいて常に利用者からの安心感を大切に意識的な対応を行っている。	職員は、普段の自然な関わりの中から、互いに言い易い関係性を築いており、利用者の尊厳を意識して接している。トイレ誘導などは、個々に応じた言葉で促しさりげなく介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアにおいて利用者一人ひとりに合ったかわりを理解し、常に意識して対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペース保てるよう常に工夫し本人の求めを大切にケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの求めに応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の好みの把握に努め、食事は勿論行事・外食等の献立に反映し、職員と利用者が個々の能力に応じて準備や後片付けを行っている。	食材は業者に委託し、利用者の嗜好や旬の食材、行事に合わせた注文をしている。嚥下状態を考慮し、食べる事に集中できる環境を作っている。お寿司や幕の内弁当等の出前、菓子やアイスなど、バラエティーに富んだ食の楽しみを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立を基に、食事や水分補給の声掛けをして量的なチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて食事後のハミガキ、ウガイ、入れ歯の清掃等常時行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを個々に行なっていて個々のパターンを把握し、必要に応じて声かけや誘導を日中夜間共に行っている。	排泄チェック表を活用し、個々の特性を理解して声掛け誘導を行っている。身体状況によって安全面や衛生面、羞恥心を考慮し、ポータブルトイレや衛生用品の使用も含めて対応を検討し、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排泄チェックを行っており、毎日の水分補給や服薬運動等に個々の能力に応じて声かけや誘導を進めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の個々の状態に応じて入浴介護のもとで会話を中心にくつろぎの雰囲気のもとで行なっている。	曜日を決め午後の時間で週2回は入浴できるように支援している。数種類の入浴剤を用意し、利用者との1対1の介助により、心身共にリラックスできる環境に努め、寛いだ語らいの時にもなっている。シャワー浴、清拭等で清潔保持に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の状態、その時の状況に応じて寝る準備や安眠の声かけ等によって対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者の個々の服薬について内容等を理解し、準備・区分・見届けを常時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、散歩、買物、日なたぼっこ等、外出や日常的に利用者の自発性のもとで生活面のお手伝い、掃除、洗濯干したたみ、オシボリ等の役割や楽しみ気晴らし個々の求めに応じて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人の協力のもとで個々の自発性にに応じてドライブ、散歩、買物等個々の希望にそって行っている。	スーパーや菖蒲園、菊祭り等の外出に誘い、季節の良い時期は毎日のように周辺を散策している。外出を億劫がる人も増えてきているが、庭先のベンチで日光浴をしたり、アイスを食べたり、外気に触れ五感刺激や気分転換の機会を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の能力に応じて家族、本人の理解のもとで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の個々の能力や希望に応じて、その都度支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的家庭で使用している物品や装飾を使用し、生活感の雰囲気を盛り上げる工夫等で対応している。	平屋建ての住空間は、温かみある家庭的な雰囲気である。居間の大きな窓からは気持ちの良い陽光と季節感を感じる事ができる。壁に貼られた行事写真は楽しかった時を回想できたり、廊下のソファは其々の居場所になったりと安らぎの場になっている。清掃も行き届き、採光や温度も適宜に調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に長イス等を用意し、居場所確保に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々に応じて自分の家、自分の自由な生活の場に合う環境の完備に対応を行っている。	居室には、洗面台やテレビ、扇風機が設置され、利用者の希望の物を持ち込み個性的な居室になっている。地震対策としてベッド位置の工夫や、自室が確認できるよう写真付きの表札を掛けるなど、安心して落ち着いて過ごせるようにサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープや廊下、便所、浴室等に手すりや床面はバリアフリー、トイレの案内(夜光性)など安全と自立に向け常に工夫し、部屋の入口には写真入りの名札で表札を明示、目のつく所に時計、日めくり等配置し自立に向けた対応を行っている。		